

## 投稿論文

アラブ首長国連邦における  
バングラデシュ出身女性の労働実態

鈴木 弥生

**Key Words** バングラデシュ、アラブ首長国連邦、女性労働者、トイレ清掃

## 1. はじめに

バングラデシュ人民共和国（以下、バングラデシュ）では、1971年の独立以降、日本の政府開発援助（Official Development Assistance: ODA）やアメリカ合衆国国際開発庁（United States Agency for International Development: USAID）主導による援助によって大規模な開発が行われてきた。それにもかかわらず、バングラデシュでは南北問題を一大要因とする経済構造のゆがみや貧富間格差が拡大傾向にある。

その一つの現れとして、大企業家や大土地所有者といった一部の既得権益者が富を蓄積している一方で、2016年現在でも国民の24.3%が絶対的貧困の状態にある。そのうち、農村居住者に占める絶対的貧困者の割合はいまだ4分の1以上（26.4%）であり、都市（18.9%）との差が歴然としている。また、農村居住者のなかでも、不就学者に占める絶対的貧困者の割合は3割を超えている<sup>1</sup>。

このような農村の貧困を背景として、現金収入を得ることを目的として首都ダカを始めとする都市へと移動する人々が多くみられるものの、雇用水準の上昇はみられず、貧困層を始めとする人々の雇用機会が慢性的に不足している。2015年度の完全失業率は4.2%であるが、都市の失業率

（4.4%）が農村の4.1%を上回っているのはそのためである<sup>2</sup>。農村から都市へと移動してきた貧困層は住宅の確保さえまなならず、スラムを形成して生活を維持してきた。しかし、ダカでは都市開発によるスラム強制撤去や路上で生活・労働する貧困層の問題が深刻化していることが現地調査を通して明らかになっている（鈴木 2016）。

フォーマル部門で雇用されている公務員・労働者（2015年度）は13.8%にすぎず、被雇用者の平均賃金（1カ月）は1万2,897タカである<sup>3</sup>。それ以外の大部分の労働者は、労働法も遵守されないようなインフォーマル部門で働き、不定期で不安定な状況におかれている。このようなバングラデシュ国内での労働需要の低さや不安定雇用による低賃金を背景として、単身で海外出稼ぎ労働に就いたり、家族構成員とともに海外移住を希望したりする人々が急増している。単身で海外出稼ぎ労働に就く人々（＝海外出稼ぎ労働者）<sup>4</sup>の移動先をみると、1976年度から2016年度の間に、約8割が湾岸協力会議（Gulf Cooperation Council: GCC）諸国で占められている。バングラデシュ政府が海外雇用政策を打ち出した2006年度、海外出稼ぎ労働者数は38万人を超えているが、そのうち、アラブ首長国連邦（United Arab Emirate: UAE）への出稼ぎ労働者は13万人となっている。それ以

降2014年度まで、バングラデシュからUAEへの労働移動が最多となっている<sup>5</sup>。

海外出稼ぎ労働者からの送金総額をみると、2010年度だけで110億ドルを超えているが<sup>6</sup>、この額は、バングラデシュ独立以降2010年6月までに同国に持ち込まれた日本とアメリカによる援助総額（経費実績ベース）106億ドル<sup>7</sup>とほぼ同額である<sup>8</sup>。このようなバングラデシュの現状について、ハッサン（Hassan 2008：51-52）は、外部主導による援助が顕著な成果をあげられなかったこと、それに代わって海外出稼ぎ労働が推奨されていること、そして、それに伴う市場経済の拡大が評価されていることを指摘している。

だが、ここでは、経済成長重視の視点から、海外での出稼ぎ労働が外貨獲得や経済開発のための重要な担い手として位置づけられていることに留意する必要がある。そのほかでも、バングラデシュ出身の海外出稼ぎ労働者による送金が外貨獲得や家計に及ぼす影響を高く評価している先行研究がみられる<sup>9</sup>。省庁および政府役人も同様の見解を示しているが、現地での貧困層の労働実態、とりわけ女性の現状にまでは関心が及んでいない<sup>10</sup>。

バングラデシュにはバルダという慣習があり、フォーマル部門で雇用されているごく一部の女性を除いて、大多数の成人女性は自宅及びその周辺で過ごすのが一般的であった。1980年代になって、バングラデシュ政府は輸出向け商品生産のための工業開発を推進するようになり、ダカや港湾都市チッタゴンの衣類縫製品工場で多くの貧困女性が雇用されるようになった。しかし、長時間労働のみならず、ラナ・ブラザ（衣類縫製品工場を含む商業型施設）崩壊に象徴されるような危険で劣悪な労働環境が問題視されるようになる<sup>11</sup>。また、バングラデシュの現地NGOは、独立以降から独自の理念と活動を展開しているが、とりわけ、1990年代になって、社会開発を推進するうえでの役割が重視されるようになる。筆者の調査対象地域では、農村でのショミティ（≒グループ）活動やマイクロクレジットによる自己雇用が

収入向上をもたらし、貧困女性の参加やエンパワメントに貢献していることが明らかになっている<sup>12</sup>。それでも、こうした活動をフォーマル部門の雇用にまで結びつけることは困難であり、その割合は、男性（17.7%）と比較しても4.6%に止まっている<sup>13</sup>。そして、今日では農村出身者の貧困女性であっても現金収入を得ることを目的として移民労働に就くといった現象がみられるものの、その背景や現地での労働実態については、必ずしも明らかにはされていない。そこで、本稿は、ナイラ・カビールによる「女性たちによる意志選択の背景」（Kabier 2000）にならって分析の枠組みを設定し、アラブ首長国連邦におけるバングラデシュ出身の出稼ぎ労働者の現状を分析することを目的とする。

## 2. 女性の移民労働

女性の移民労働者に関する先行研究は、「再生産労働」を通して分析しているところに特徴がある。また、近年では、主にフィリピン出身女性の現状分析について研究蓄積がみられる。

久場（2001）は、1970年代以降の労働力の女性化を「経済のグローバル化と再生産労働をめぐる変化」に焦点をあてて考察している（同：45）。久場の研究は、家事労働者のみならず、国境を越えてケアワークに従事する移民女性の現状にも焦点をあてているところに特徴がみられる（久場 2007：141-166）<sup>14</sup>。そして、国境・地域を超えた多くの女性たちが市場化した再生産領域の担い手として働いていると言及している（同上書）。

実際にも、経済発展を遂げた国々における低賃金家事労働への高い需要に对应しているのは途上国出身の女性たちであり、その結果として「南から北へ、東から西への家事労働者の移動が生まれている」（パレーニャス、2007：127-128）。伊藤・足立ら（2008：21）は、国際移動の女性化という現象について「グローバリゼーションの過程がモノ

やサービスの生産領域だけでなく、生殖やケア労働といった人間の再生産領域にまで深く食い込んでいる」と述べている。そしてヨー（Yeoh）は、雇用機会が減少している国々出身の女性たちは、安価で柔軟な労働者として急速な工業化を遂げている国々の輸出加工区や工場での労働に従事させられていると指摘している。そして「女性の労働移動において数的にもより重要になっている形態が、再生産と結びついた家事サービスや性産業である」（2007: 149）。

また、石井（2011: 25-46）は湾岸諸国におけるフィリピン出身のムスリム女性に焦点をあて、送出国・地域および移動先双方での調査を通して、人権侵害を切り口として語られがちな女性たちが家事労働者として複合格差をどのように作り直そうとしているのか、その主体性を浮かび上がらせることが重要であるという立場をとっている。

このように、女性の移民労働に関して研究が蓄積されているものの、UAEにおけるバングラデシュ出身女性の現状については、管見の限りでは明らかにされていない。そのために、現地調査を通して現状を把握する必要がある領域となっている。

### 3. 分析の枠組み

カビール（Kabeer 2000）によれば、縫製産業は、社会から排除された労働者を搾取することによって利益を生み出してきた（ibid.: 403）。だが、彼女の研究対象地域である2つの労働市場、すなわち、ダカの輸出志向型縫製品工場での有償労働とロンドンでの国内市場型小規模工場、下請けユニット、あるいは家内労働には大きな違いがみられる（ibid.: xi-xii and 403）。ロンドンの家屋内で出来高払いの仕事に従事しているバングラデシュ出身の家内労働者たちは、可視化されることもなく、かつ社会から排除された階層におしこめられ

ていった。これとは対照的に、バングラデシュにおける衣類縫製品工場での労働は、女性たちを周辺から中心へと移動させた。こうした現象は、新しい、そして仮に問題を含むとしても、包摂の表現としてみることができると結論づけている（ibid.: 403-404）。

だが、ダカの女性労働者たちが有償労働を選択した理由も一様ではない。そのため、意志選択の背景に着目して、以下3つに分類している（ibid.: 85-87）。

第1のグループは、非常に貧しい世帯出身の女性であり、選択の余地がない。第2のグループは、同様に選択の自由がほとんどなかった女性たちである。彼女たちは、何らかの特定の逆境への対応として有償労働を始めている。例えば、主な稼ぎ手の死亡、離婚、土地の喪失、家族経営の事業破綻等である。第3のグループは、比較的裕福な世帯に属しており、追加的所得を求めている。ここで筆者が、第1と第2のグループについての違いについて説明を加えると、前者のグループに所属している女性たちは最貧困女性であり、もともと、土地なし層の世帯に属する。あるいは、都市であれ、農村であれ、スラムを形成して生活を営んでいる世帯の女性たちである。

カビールは、これら縫製産業に従事する女性たちの存在がバルダを始めとする社会的慣習を打ち破り、女性の意志選択の幅を広めてきたと言及している。そこには、カビールがかつて実際にみていたバルダや社会的慣習、家父長制への関心がみえる。しかし、原著発行が2000年ということからなのか、市民社会活動の発展、とりわけ、現地NGOによるコミュニティレベルでの活動とそれに伴うバルダや社会的慣習への影響、市民社会による活動に参加する貧困女性のエンパワメント等については描かれていない。ベンガル人女性のエンパワメントや社会的慣習の克服には、これら市民社会の活動に参加する貧困女性やそこで有償労働やボランティア活動に従事する女性たちもまた大きく貢献している。いわば、それら相互作用によって拡大しているとみることができよう。

## 4. UAEにおける移民労働者の背景

### 1 | 受入国：石油による富とカファラ

GCC諸国の労働需要は、第一次石油危機以降加速する大規模な開発事業と関連している(Hassan 2008: 54-56)。UAEの特徴は、第三国のなかでもアジア出身の低賃金労働者を求めたことである(Cohen 2019: 148)。

アリ(Ali 2010)によれば、石油から生まれた富は市民の生活スタイルを根本的に変えたが、移民にも影響を及ぼしている。ただし、石油によってもたらされた富がこの国に変化をもたらしたという説明だけでは不十分である。すなわち、市民と移民、国家と移民との関係の基礎に、移民労働者を管理するカファラ<sup>15</sup>と呼ばれるスポンサーシップ制度が設けられた。これらを組み合わせることによって、UAEのうち、ドバイとアブダビは、1960年代までの伝統的な生活様式から現在の生活様式へと移行することが可能になったと分析している(ibid.: 26-27)。

カファラの運用方法は各国において多少差異がみられるものの、基本的にはGCC諸国の国籍を有するスポンサー＝カフィールの力を絶大なものにしてしている。移民労働者は、就労許可、労働ビザ発給、労働条件、転職等において拘束されている<sup>16</sup>。移民労働者が団結して意見や要求を表明したり、ストライキを行ったりする行為は、労働者の権利として国際的にも認められているはずであるが、どれもが禁じられている<sup>17</sup>。それゆえ、移民労働者に脆弱性をつきつけるカファラは、アリ(ibid.)やヒューマン・ライツ・ウォッチ(2014: 2009)ほかから強く批判されている<sup>18</sup>。コーエン(Cohen 2019: 149)もカファラによって移民労働者が孤立し、受入国が労働者の権利や保護に無関心であることを問題視している。そのため、送出国においても自国民を保護する必要があるものの、フィリピン等を除いてそうした対策を講じている国は少ない(ibid.)。

UAEでの労働需要の増加は急激な近代化に伴う建設ラッシュと関係しているが、海外出稼ぎ労働者への酷使がより目立つようになったのは2005年以降である(Ali op. cit.)。なかでも、建設労働者やメイド労働者が最も酷使されていることがアリ(ibid.: 81-109)やヒューマン・ライツ・ウォッチ(2014: 2009: 2006)の実態調査から明らかになっている。

### 2 | バングラデシュ：女性の出稼ぎ労働者

1970年代当時、バングラデシュ政府は女性の海外出稼ぎ労働に関する具体的な政策を立てていなかった。だが、1981年の大統領令は、女性の移民労働について、一定の専門職、あるいは男性(家族構成員)に同伴する場合にのみ就労が可能という条件を課した。さらに、海外居住者福利厚生・海外雇用省(Ministry of Expatriates' Welfare and Overseas Employment)が設立されると(2001年12月)「35歳に達した女性は未熟練であっても海外出稼ぎ労働が可能」(2003年)という方針を採るようになったことから、同年、2,353人の女性が未熟練労働に就いた。2006年にはこの年齢が25歳に引き下げられたが、清掃労働はその対象とされていなかった。また、未婚女性に対しての制限は撤廃された<sup>19</sup>。同省庁は、海外出稼ぎ労働者を「労働力輸出」と表現しており「外貨獲得の有効な手段」として位置付けているが<sup>20</sup>、こうした政策を反映して女性の移民労働者数は増加傾向にある。UAEへの労働者数は、2004年度に3,200人、2011年度には6,000人を超えているが、この数は、同年度の女性の海外出稼ぎ労働者総数の約3から4割を占めている<sup>21</sup>。

また、UAEを始めとするGCC諸国で労働に就くためには、事前にスポンサーを見出すことが必須条件となっている。UAEで未熟練労働に就いているバングラデシュ出身者の大多数は貧困層であるが、事前にスポンサーを見出すのは困難である。そのため、政府と結託して海外出稼ぎ労働者増大を図るダカの斡旋業者、これら斡旋業者の下請け的存在を担う農村内のブローカーが「未熟練



労働かつ長時間労働」といったUAEの労働力需要に基づいて女性労働者が募集されている現状を注視する必要がある。また、ラーマン（Rahman 2011: 15）によれば、バングラデシュからGCC諸国への労働移動のために斡旋業者に支出する費用は、平均19万5,237タカ（2010年、2,750US\$）である。

## 5. 現地実態調査

### 1 | 調査方法

バングラデシュでの現地調査は1997年より2012年までのあいだ、12回に及んで継続してきた。この間、クミッタ県およびダカに滞在して「外国援助による農村居住者への影響、社会開発を推進する市民社会の理念と活動実態およびそれらの活動への貧困女性の参加実態を明らかにすること」を目的として、貧困層やスラム居住者の戸別世帯訪問調査、現地NGOをはじめとする市民社会の職員、市民社会の活動に参加する貧困女性のほか、ユニオン評議会議長・議員や政府役人等、広い層から聞き取り調査やアンケート調査を行ってきた<sup>22</sup>。

なかでも、2000年から継続してきたクミッタ県ダウドゥカンディ郡農村での継続的な戸別世帯訪問調査を通して居住者の生活実態を把握しているが、2012年には、家族構成員が海外出稼ぎ労働に就いている貧困世帯を再訪した。また、同地域で最も貧しい人々が住んでいるスラムのすべての世帯を訪問し、詳細な聞き取り調査も実施した。海外居住者福利厚生・海外雇用省、バングラデシュ海外雇用サービス株式会社（Bangladesh Overseas Employment Services Limited: BOESL）、海外出稼ぎ労働の斡旋業者を訪問して資料収集と聞き取り調査を行ったのは2012年3月である。同年、UAEからダカの自宅に数か月間帰国中であった移民労働者と彼の家族から詳細な聞き取り調査を行っている。

バングラデシュでの現地調査を通して、家族構成員は出稼ぎ労働に就いている子どもたち、兄弟、親戚の生活や労働実態を正確に把握していないことが分かった。そのため、2012年以降、バングラデシュ出身者の移動先に重点をおいて調査を継続している<sup>23</sup>。UAEでは、2010年12月にドバイ<sup>24</sup>、続く2012年11月にドバイとアブダビ、2014年1月にはアブダビにおいて、バングラデシュを始めとする途上国出身者の労働実態の観察および聞き取り調査を行った<sup>25</sup>。

調査場所は、建設現場、ホテル、書店、ホテルやモール内の各店舗、タクシー車内、トイレ、フード・コート、建設労働者が密集するレーパークャンプ等である。

聞き取り調査を行ったバングラデシュ移民労働者の総数は、2010年にドバイで9人（女性2人、男性7人）、2012年にドバイで32人（女性5人、男性27人）、アブダビで23人（女性8人、男性15人）、2014年にアブダビで23人（女性12人、男性11人）である。女性の職種はトイレ清掃もしくは家事労働、男性の職種は、清掃（トイレ、フード・コート、ロビー、モール屋外、ホテル客室）清掃労働者のスーパーバイザー、建設労働、タクシー運転、オフィスでの雑用、ホテル受付横のコンサージ、フランチイズ店（販売員）であった。このなかで、大学を卒業しているのは清掃労働者のスーパーバイザーとフランチイズ店店員である。この2人を除く大多数が英語を理解していないことから、調査は、彼女・彼らの母語であるベンガル語を介して行っている。このほか、先進諸国出身女性2名（2014年）から聞き取り調査を行ったほか、メイドの雇用主2世帯（2012年、2014年）を通して各家庭で雇用されているメイドの給与や雇用状況について確認している（雇用主の子どもたちも含めて英語を理解している）。

### 2 | 調査内容：女性労働者の労働実態と意志選択の背景

ここでは、2012年と2014年にアブダビで行った実態調査のなかから、(1) バングラデシュ出

身女性の労働実態（職種、労働時間、休憩場所、休日、給与等）、(2) UAEでの労働年数と帰国回数、(3) 意志選択との関係から、家族構成員および土地所有状況、回答者の最終学歴、就労方法、就労経験等に焦点をあてる。表1はそれらについてみたものであるが、調査対象者14人の内訳は、婚姻経験あり9人、なし5人となっている。前者9人のうち、8人が女性世帯主世帯である。その内訳は、生別が4人、死別が4人である。また、後者5人のうち、3人が女性世帯主世帯の出身（父親他界）、ほか2人は父母のいる世帯となっている。なお、14人のうち、AからFの6人からは、2012年と2014年の調査時、複数回に及んで聞き取り調査を行っている。GとHからは、2012年に聞き取り調査を行ったが、2014年には、AからFの6人を通して現状を把握している。上記、調査内容の公開について了解を得ているものの、各建物名称が有名であることから、被調査者が特定されることを避けるため、それらの公表を控えている。

### 3 | 労働実態

#### (a) 職種

職種（表1）は、清掃労働：11人、清掃労働とメイド（通い）：1人、メイド：1人（住み込み）である。Hの職種も清掃労働であったが、休日にモール内で口紅1本を万引きしたことから、すぐさま、解雇および退去を強制された。彼女が万引きをした際に手をつないでいたという理由からGも同様の処分を宣告されたが、無実であるということをアラビア語で釈明して退去は免れた（彼女は、サウジアラビアで清掃労働者として10年間働いた経験がある。そこで日常会話程度のアラビア語を習得していた）。その後、現在の雇用主が身元引受人となり、住込みのメイドとして家事・雑事・育児のすべてを行っている。

#### (b) 労働時間、休憩場所、休日

清掃労働者の労働時間と休日（表1）をみると、

6人（A～F）が1日13～14時間労働で休日は1ヵ月に3回、5人（J～N）が1日12時間労働、1人（I）が1日12～14時間労働で休日は1ヵ月に1回となっている。休憩時間は30分前後設定されている。彼女たち全員が、弁当（カレー）をつくって持参しているが、J～Mは、トイレに隣接して設置されている休憩室、Nは、トイレに隣接しているトイレ用清掃具の保管室で食事をとる。A～Fの職場には休憩室が設置されているため、昼食時、約30分は食事を兼ねて休憩する。そのほかにも、フード・コート内の各店舗やレストラン、各移動販売店が設置されているが、そこで食事をしたことはない。ただし、モール内の移動中、空腹に耐えかね売店でスナックを購入してトイレ内で口にすることはある。長期間UAEに滞在しているIによれば、現地の物価は年々高騰している。

メイド（G）の労働は夜明け前から始まり、休日はおろか休憩時間もままならない。仲間同士で話をしたり、休日に眠り続けたり、テレビをみたりする時間もまったくない。彼女たちは、Gの状況を心配して週に数回電話を入れているが、仮に話ができて1週間に数分程度である。

#### (c) 給与

給与は、UAEがバングラデシュ出身の未熟練労働者に支払う最低賃金（850 Arab Emirates Dirham : AED<sup>26</sup>）を満たしているものの、同職に就いているフィリピン出身者よりも低く抑えられている（調査に応じてくれたフィリピン出身者全員が高等学校を卒業している）。この賃金から食材費用や電話代を差引くと、手元に大金が残るわけではない。そのため、Lは、週に2回、メイドの労働（主に食事づくり）も行っている。

#### (d) 監視の構造

UAEでのトイレ清掃労働者は、近代的なモールや国際空港内に新設されたトイレ内、また、旧モールのトイレのなかに長時間拘束されている。長打の列ができる時間帯を除いて、基本的には、利用者が使用するたびに各トイレを清

表1：UAE: バングラデシュ出身の女性労働者

	1 労働実態	2 年数	3 意志選択の背景：本人・家族構成員、土地所有状況		
事例 (A～N) 職場 (O～S)	①職種と労働時間 ②休日	①就労年数 ②帰国回数 /年数	回答者の最終学歴 就労の理由 就労方法 (過去の就労経験と年数)	世帯・婚姻等 家族構成員	土地所有 の有無
A 職場O	①トイレ清掃 常駐1～2人 13-14時間 (7～21時もしくは10～24時) ②3日/1ヵ月	①2年 ②2ヵ月/2年	C5 (初等教育5年間) 子どもの就学継続。 夫他界。 幹旋業者を通して (前職：衣類縫製品工場)	女性世帯主世帯 [死別] 長女：18歳 College 長男：14歳 C5	土地なし
B 職場O	①トイレ清掃 常駐1～2人 13-14時間 (7～21時もしくは10～24時) ②3日/1ヵ月	①2年 ②2ヵ月/2年	C5 (初等教育5年間) 貧困層出身の男性との結婚を強いられそうになっていた。 そこで、僅かばかりの農地を売却して海外出稼ぎ労働にでたい。 そうすれば、家族に送金できると懇願した。 貧困から脱け出したい。 幹旋業者を通して	女性世帯主世帯の長女 [未婚] 父親：他界 母親：家事労働 長女：本人 二女：16歳 C9 三女：12歳 C6 四女：7歳 C5 五女：5歳 C1	土地なし
C 職場O	①トイレ清掃 常駐1～2人 13-14時間 (7～21時もしくは10～24時) ②3日/1ヵ月	①2年 ②未定 ＊経済的理由	不就学 夫他界後、現金収入を得る必要性が生じた。 子どもの就学を継続させたい。 幹旋業者を通して	女性世帯主世帯 [死別] 長女：11歳、他界した夫の母親と生活 二女：回答者の母親と生活 ＊両世帯とも貧しいため、姉妹を同世帯で育てられない。	土地なし
D 職場O	①トイレ清掃 常駐1～2人 13-14時間 (7～21時もしくは10～24時) ②3日/1ヵ月	①2年 ②2ヵ月/2年	高等教育修了 (Higher Secondary Certificate: HSC) 友人 (E) から誘われた。 幹旋業者を通して	未婚 父親：ビジネス 母親：家事労働者 長男：22歳 HSC既婚 長女：20歳 HSC既婚 家事労働 二女：本人	父親所有
E 職場O	①トイレ清掃 常駐1～2人 13-14時間 (7～21時もしくは10～24時) ②3日/1ヵ月	①2年 ②帰国の予定なし	HSC 胎児死産の後実家に戻されたが、そこに居場所はなかった。 そこから離れて現金収入を得るためには、この方法しかなかった。 幹旋業者を通して	結婚後、生別 (胎児、死産のため実家に戻された)。  元家族 父親：学校長 母親：家事労働 長女：本人	義父所有
F 職場O	①トイレ清掃 常駐1～2人 13-14時間 (7～21時もしくは10～24時) ②3日/1ヵ月	①2年 ②2ヵ月/2年	C5 (初等教育5年間) 父親が他界したため、現金収入を得る必要性が生じた。 幹旋業者を通して	女性世帯主世帯の長女 父親：他界 母親：家事労働 長女：本人 長男 二男	土地なし
G 職場P (元職場O)	①メイド (家事・育児) ②休日なし	①2年 ②未定	不就学 第1子誕生直後に夫が他界したため、現金収入を得る必要性が生じた。 幹旋業者を通して (トイレ清掃) メイド (雇用主の知人からの紹介) 選択肢なし。 (前職：トイレ清掃、Hの万引きに同行した疑いから解雇。 前職：サウジアラビア、病院内清掃、10年)	女性世帯主世帯 (死別) 長男：C5で退学 回答者の母親と生活	土地なし
H (元職場O)	(前職：清掃労働者 ＊万引きにより解雇)	①1年 ②強制帰国	不就学 クミッラ県のスラムで生まれ、そこで育った。 現金収入を得て貧困から脱け出したかった。 幹旋業者を通して (借金)	未婚 父親：リクシャ引き 母親：家事労働 姉妹兄弟あり：全員不就学 本人：上記家族のもとには帰れない。母方祖母宅に身を寄せている。	土地なし

	1 労働実態	2 年数	3 意志選択の背景：本人・家族構成員、土地所有状況		
I 職場Q	①トイレ清掃 常駐1人 12-14時間/1日 ②1日/1ヵ月	①10年 ②2ヵ月/2年	不就学 夫が2人目の妻と生活するようになってから、生活費を渡してくれなくなった。 斡旋業者を通して	女性世帯主世帯〔生別〕 長男：25歳、農業労働者 長女：20歳 学生 二男：元衣類縫製品工場労働者、 工場火災に遭い他界 三男：14歳 C8	土地なし
J 職場R	①トイレ清掃 常駐3人 12時間/1日 ②1日/1ヵ月	①4年 ②2ヵ月/2年	C10 (中等教育10年間) 夫が出稼ぎ労働に就いたものの送金がない。 斡旋業者を通して	女性世帯主世帯〔生別〕 現在、夫とは連絡がとれない。 夫：ドバイでタクシー運転手 長女：5歳 (母方祖母と同居中)	土地なし
K 職場R	①トイレ清掃 常駐3人 12時間/1日 ②1日/1ヵ月	①1年 ②2ヵ月/2年 (予定)	C5 (初等教育5年間) 3ヵ月前に夫が他界。 子どもたちの就学を継続させたい。 斡旋業者を通して (父親、農地売却)	女性世帯主世帯〔死別〕 長男：18歳 (College) 二男：14歳 (C9)	土地なし
L 職場R	①トイレ清掃 常駐3人 12時間/1日 ②1日/1ヵ月 ①メイド (兼) 2日/1週間 (労働)	①1年 ②2ヵ月/2年 (予定)	C5 (初等教育5年間) 家屋建設 斡旋業者を通して (トイレ清掃) メイド (友人を通して) トイレ清掃のみでは送金できない。	既婚 夫：ドバイ出稼ぎ労働 長男：11歳、C6 長女：8歳、C3 二女：2歳	
M 職場R	①トイレ清掃 常駐3人 12時間/1日 ②1日/1ヵ月	①18日 ②4年間労働 してから、 数ヵ月間帰 国予定	不就学 母親に送金するため (子どもの頃父親他界。 近隣居住者の支援で生活してきた)。 斡旋業者を通して (借金)	女性世帯主世帯の五女〔未婚〕 父親：他界 母親：家事労働 長女～四女 (既婚、不就学) 五女：本人 六女：既婚 (不就学) 七女：既婚 (不就学) 八女：家事 長男：24歳、不就学、ビジネス	土地なし
N 職場S	①トイレ清掃 常駐1人 12時間/1日 ②1日/1ヵ月	①1年 ②2ヵ月/2年 (予定)	不就学 夫が家族から離れて生活するようになってから、現金収入を渡してくれない。 斡旋業者を通して	女性世帯主世帯〔生別〕 長女：4歳 (母方家族と同居中) 父親：他界 母親：家事労働 長女：本人 二女：母親の家事手伝い 長男：15歳 二男：14歳 C6 三男：11歳 C4	土地なし

掃して次の客を誘導する。各清掃労働者にはビニール手袋が配給されているものの、有害洗剤や特有の匂いのなかで1日に十数時間も拘束され、清掃のほか、汚物処理等を余儀なくされている。

清掃労働者は、それぞれの担当場所を示すための作業着を着用しなければならない。現地の人々や観光客の防犯目的としながらも、トイレ入り口のほか、至る所に監視用カメラが設置されている。フィリピン、ケニア、スリランカで大学を卒業した現場監督者は、彼女たちの労働実態を監督

している。現場監督者のみならず、白の民族衣装を着用して店内を歩いたり、カフェで長く時間を潰したりしている複数の男性たちがUAE国籍の管理責任者である (調査のたびに、筆者が現場監督者らに声をかけられる背景には、こうした監視構造があった)。

雇用主の家庭内に住み込んで労働しているメイドにしても、各家庭内において長時間拘束されており、雇用主と家族の指示のままに働くことが求められている。休日でもままならないことから、清掃労働者よりも拘束された状態におかれている。



## 2 | UAEでの労働年数と帰国回数

滞在年数（表1）は、18日目：1人、1年：3人、2年：7人、4年：1人、10年：1人である。調査対象者全員が「UAEに到着するまで職種は知らされていない。契約書の内容（詳細）も知らない。パスポートは所有していない。2年間労働して1度帰国できる」と回答している。

そこで帰国回数（表1）についてみると、13人のなかで、帰国経験があるのは2人である。滞在年数が2年と回答している7人（A～G）のなかで、4人は数日後に帰国を控えていた。残り3人のうち、1人は家庭内での居場所を喪失していること、もう1人は経済的理由から帰国することができない。また、清掃労働を解雇されてからメイドとして労働しているGの帰国予定は不明である。さらに、労働して僅か18日目のMは借金をして労働に就いていることから、4年間労働したのち、一時帰国を予定している。

## 3 | 意志選択の背景

### (a) 家族構成員および土地所有状況

バングラデシュでは、土地所有の有無が家族構成員の生活状況を左右している。そこで、ベンガル人女性清掃労働者の意志選択に影響を及ぼす家族の背景および土地所有状況についてみると（表1）、14世帯のなかで10世帯が女性世帯主世帯であり、かつ、土地なしの貧困層である。そのなかの1人（H）は、スラム出身者である。これら10人の女性たちは「家族構成員の生活維持のために現金収入を得なければならない」という状況を余儀なくされている。彼女たちのなかで、自分自身の将来のために海外出稼ぎ労働を選択したという回答はまったくみられず、大多数がやむを得ない事情で移動している。

詳細をみると、例えば、Bは貧しい世帯の男性と結婚させられそうになっていた。そこで、僅かばかりの農地を売却して海外出稼ぎ労働の一部を捻出することを保護者に提案した。これにより、彼女の世帯は土地なし層へと転落している。彼女

は「妹たちをこのような仕事には決して就かせない。こんな体験は、家族のなかで、私ひとりです十分である。海外での清掃労働の経験から、よい結婚に恵まれるとは思わない。誰がこんな私を大切にしてくれるのか。一生この仕事をしたいわけではない。誰がこんな仕事を好んで行う？ それでも、家族のためにできる限りのことをする。妹たちができる限り就学を継続して幸せになってくれたら、このような労働に就かないで家族と暮らせるのであればそれが最善のことでしょう。あなたもそう思うでしょう」と語った。Kは、夫が他界してから子どもたちの就学を継続させることが困難になったため、海外出稼ぎ労働に就いている。Gは、第1子誕生後間もなく夫が他界して以来、海外出稼ぎ労働を継続してきた。子どもは彼女の母親と生活してきたが、寂しさからなのか、不良のようになってしまった。子どもの就学機会を確保したかったが、クラス5（初等教育5年間）<sup>27</sup>で退学してしまった。

そのほかの就労理由をみると、例えば、Eは子どもに恵まれない家庭に引き取られて高等教育修了証（Higher Secondary Certificate: HSC）まで取得した。その後、養親の紹介で結婚しているが、胎児死産という状況に遭遇してから養父母の元に戻され、そこでも居場所を喪失していた。そのため、現金収入を得て生活する術を求めたことによる。この女性と高校時代から親しくしていたDも貧困層の出身ではないが、この友人（E）に誘われて海外出稼ぎ労働に就いている。彼女のみが「UAEに行ってみたいという気持ちがなかったわけではない。ただ、明確な目的があったわけでもなく、何となく友人についてきてしまった。今となってはものすごく後悔している。UAEでのトイレ清掃労働者としての経験が自分自身の良い将来に結びつくとは思えない」と回答している。彼女たちの世帯では、父親（Eの養父を含む）が屋敷地を所有している。

### (b) 学歴

不就学：6人、クラス5：5人、クラス10：1人、

HSC取得：2人である。彼女たちのなかで、会話程度の英語を習得しているのは、クラス5まで就学経験のあるBのみである。彼女は、フィリピン出身者が英語で現場監督者と話をしているようすをみて、バングラデシュ出身者も英語を身につける必要があると考えるようになった。「そうしなければ、何一つ交渉もできないし、必要に応じて説明したり弁明したりすることさえできない」。そこで、フィリピン出身者の傍に行って英会話に傾聴したり、現金を出しあってテレビを購入してニュース番組を視聴したりするなかで英語を習得している。

#### (c) 就労方法

調査対象の女性全員が、斡旋業者を通して就労している。そのため、高額の「海外出稼ぎ就労のための斡旋料」を支払う必要があった。Iによれば、諸費用を含む斡旋料は年々引上げられている。HやMは、この費用を捻出できなかったことから借金をせざるを得なかった。Mは、最初の4年間の賃金を斡旋業者への返済に充てている。この返済を終えるまで一時帰国の目途はたたない。Hは、負債を抱えている状態で退去を強制された。前述のように、Bの世帯では僅かな農地を売却して就労に要する諸費用の一部にあてている。

#### (d) 就労経験

Aがバングラデシュの衣類縫製品工場労働での就労経験（未熟練、10年間）を有している。また、先に触れたように、Gは、サウジアラビアの病院で10年間、清掃労働の経験がある。

### 4 | 調査結果のまとめ

トイレ清掃者やメイドとして労働しているのは、ベンガル人を含む途上国出身者のみである。トイレ清掃者は、一目でそれが分かる作業着を着用しているほか、有害洗剤を扱うことからビニール手袋が配給されている。労働実態をみると、1日に十数時間も狭いトイレ内に拘束され、清掃のほか、汚物処理等を余儀なくされている。なかに

は、休憩室さえ設置されていない職場もみられる。そのうえ、トイレ前に設置された監視カメラ、館内の至るところにある監視機能、私服を着用した監督責任者や監視員の存在があった。雇用主はUAE国籍の男性であるが、彼女たちを直接監督しているのは、他途上国出身で大学卒業資格を有している女性たちであった。

住み込みのメイドに至っては、より深刻な状況がみられる。途上国出身の女性たちは各家庭内に拘束され、連日の仕事は夜明け前より始まるのが常で、掃除、洗濯、食事づくりのほか子守に至るまで、家族構成員の指示のもとでこなしていかなければならない。

## 6. 結び

UAEで労働するバングラデシュ出身女性の職種は、未熟練労働者としてのトイレ清掃とメイドに限定されているが、何れの場合においても、国際労働機関が示す労働時間及び休日・休憩時間は守られていない。

カビールによる意思選択を分析の枠組みとしてみると、筆者によるUAEでの限られた調査の範囲内ではあるが、裕福な家庭から追加的な収入を目的として移民労働を選択しているバングラデシュ出身女性はみられなかった。調査に応じてくれた女性の殆んどは貧困層の出身であり、なおかつ、夫が現金収入を渡さない、離婚や死別等といった家庭的な事情を抱えている。また「出身家庭が貧しいので、そのまま故郷に残っていたら自分たちと同様の貧困層出身の男性と結婚させられるよりほかに選択肢はなかった。妹たちの将来のためには、この方法以外なかった」と回答する女性もみられた。貧困世帯の女性ではないものの、胎児死産という理由から家庭内での居場所を喪失して移民労働に就いているという女性もみられた。

UAEでの労働によって、会話程度の英語を身

に着けたという女性がみられる。しかしながら、あまりにも長時間に及ぶトイレ内での労働が本人たちの自己肯定感につながっているとみることはできなかった。彼女たちは「UAEでのトイレ清掃労働といった経験が、仮に家族を支えられるとしても、バングラデシュ帰国後の自らの人生に良い影響を及ぼすことはない」ととらえている。そのうえ、ベンガル人女性労働者の職種はトイレ清掃とメイドに限定されており、長時間労働を余儀なくされていることから、可視化されることがない。これに対して、同じバンラデシュ出身者であっても、男性の場合、大学を卒業して清掃労働者のスーパーバイザーを務めている人もみられる。そのほかにも、タクシー運転手やホテル内のコンサージなどが含まれている。

再生産領域の枠組みを通してみると、国際労働移動の女性化が再生産役割の延長線上にある労働にまで食い込み、なおかつ、そうした労働が、途上国出身の移民を受け入れながら市場のなかで行われていることが、新たに、バングラデシュ出身女性のUAEでの労働実態を通して明らかになった。

バングラデシュからUAEへの労働移動については、少なくとも以下の構造がみられる。バングラデシュ省庁や政府と結託しているダカの斡旋業者やその傘下にある農村内のブローカーは、UAEの労働需要、すなわち、未熟練かつ低賃金労働といった条件に基づいて海外出稼ぎ労働者を募集している。そのうえ、海外出稼ぎ労働に就くための必要経費として多額の費用を徴収している。それにもかかわらず、貧困層には事前に労働条件等が知らされていない。そして、バングラデシュ出身の貧困層については、海外出稼ぎ労働者の最初の数年間の賃金が必ずしも貧困問題の解決には結びついていない。彼女たちの就労目的の多くは貧困からの脱出であるにもかかわらず、UAEの社会構造のなかでも底辺におしこめられ、さまざまな困難に直面している状況が明らかになった。こうした社会構造に目を向け、国際労働移動が研究対象地域であるバングラデシュの貧困層に及ぼしてい

る影響について研究・調査を継続している。これから研究成果について、適宜報告してゆきたい。

## 付記

バングラデシュでの現地調査は、1999年度以降継続してきた学術振興会科研費助成（研究代表者：鈴木弥生）により実施した。UAEでの現地調査は「バングラデシュの貧困と国際労働移動に関する実態調査」（2011-13年度：23530697）、（研究代表者：鈴木弥生）の助成により実施している。学術振興会科研費助成の最新課題は、「グローバル化と国際労働移動：バングラデシュ女性労働者の実態調査」（2014-17年度：26380709）に続いて、「ニューヨーク市におけるバングラデシュ出身の移民：移民第二世代の生活実態調査」（2018-2022年度予定：18K11792）、（以上、研究代表者：鈴木弥生）である。

## 注

- 1 Bangladesh Bureau of Statistics (BBS) (2020: 536)。CBN (Cost of Basic Needs) 法による (ibid.)。
- 2 BBS (2017: 70)。
- 3 Ibid.: 59 and 88. なお、1タカ≒1.3円 (<https://www.xe.com/ja/currencyconverter/convert/?Amount=1&From=BDT&To=JPY>) (最終閲覧 2021年11月27日) となっている。
- 4 UAEは、研究者、専門職、労働者など、すべての外国人に対して一時的滞在者としてしか認めていないため、本稿では「海外出稼ぎ労働」を使用している。ただし、先行研究やデータの内容が移民を意図している場合には、「移民労働」を使用している。また、本稿における「国際労働移動」は「海外出稼ぎ労働」と「移民労働」の双方を含む。
- 5 Ministry of Expatriates' Welfare and Overseas Employment (2012)。バングラデシュの会計年度は7月から6月までである。また、ハッサン (Hassna 2008) によれば、移住先として関心や人気が高まっているのはアメリカ合衆国である。なお、Suzuki (2019: 2017 et al.) 参照。
- 6 Ministry of Expatriates' Welfare and Overseas Employment (2012)。
- 7 Economic Relations Division (2011: 97 and 113) より筆者算出。
- 8 海外出稼ぎ労働者からの送金総額がGDPに占める割合は、2003-04年度の6.0%から2009-10年度の11.1%にまで上昇している (Economic Adviser Wing 2011: 38)。

- 9 例えば、Murshid et al. (2001)、Pradhan and Khan (2015)、Choudhury and Habib (2008)。
- 10 バングラデシュ、関係省庁での聞き取り調査による(2012年3月)。
- 11 Kabir, et al. 2018. 参照。
- 12 鈴木 (2016)。
- 13 BBS (2017: 59)。
- 14 久場 (2007) は、「有償(賃金)労働としてのケア活動に焦点をあてている」(同: 162)。また、久場 (2001) は、アンダーソン (Anderson) の先行研究をみたくて「人間の再生産に関わる労働が、国際的な移民を受け入れながら、『家庭の外』、市場のなかで行われている」と言及している (同: 69)。
- 15 カカンデによれば、カファラ (カファラ・スポンサーシップ) とカフィール (スポンサー) はアラビア語のカファラに由来するもので、「保護者」、「保証」、または誰かの責任を取ることを意味している (Kakande 2015: 3)。
- 16 Ali (2010)、Human Rights Watch (2014: 2009) のほか、ニューヨーク市のロングアイランド大学でのアリとのインタビューによる (2016年11月)。アリは、UAE で移民労働者を対象に調査を行っていたという理由から、13時間拘束されたのち、調査内容を保存したすべてのデータを没収されたうえで退去を強制された。詳細はAli (November 11, 2007) 参照。
- 17 Human Rights Watch (2010: 568 and 569)。
- 18 例えば、Longva (1997)、Baldwin-Edwards (2005)、Mahdavi (2011)、Vora (2013)、Kakande (2015) 参照。
- 19 Ain O Salish Kendra, CEDAW and the Female Labour Migrants of Bangladesh ([http://www2.ohchr.org/english/bodies/cedaw/docs/ngos/MFA\\_for\\_the\\_session\\_Bangladesh\\_CEDAW48.pdf](http://www2.ohchr.org/english/bodies/cedaw/docs/ngos/MFA_for_the_session_Bangladesh_CEDAW48.pdf)) (最終閲覧 2021年11月21日) より構成している。詳細はibid.を参照
- 20 Ministry of Expatriates' Welfare and Overseas Employment (2012: 33)。
- 21 同上、資料による。
- 22 詳細は鈴木 (2016) 参照。
- 23 バングラデシュ出身者の移動先として、UAEのほか、ニューヨーク市、オマーン、カタール、モルディブ、ブルネイ等で調査を行った。ニューヨーク市での調査は、2009年以降継続中である。
- 24 2010年のUAEでの現地調査は、関東学院大学人間環境研究所 2010年度研究プロジェクト助成による。鈴木・佐藤 (2012) 参照。
- 25 UAEでは、バングラデシュのほか、インド、パキスタン、ネパール、スリランカ、フィリピン、ミャンマー、イラン、ケニア、シリア等の出身者から聞き取り調査を行った。
- 26 1 ディルハム (Arab Emirates Dirham : AED)  $\approx$  31.0円 ([https://www.xe.com/ja/currencyconverter/convert/?Am](https://www.xe.com/ja/currencyconverter/convert/?Amount=1&From=AED&To=JPY)

ount=1&From=AED&To=JPY)

(最終閲覧 2021年11月27日)。

- 27 初等教育 (Primary Education) は5年間 (クラス1~5) である。これに続く中等教育 (Secondary Education) は、Junior Secondary Education (クラス6~8)、Secondary Education (クラス9、10)、そしてHigher Secondary Education (クラス11、12) に大別されている (BANBEIS 2007: 5-13)。クラス11への進学に際して中等教育修了証 (Secondary School Certificate: SSC)、大学受験時に高等教育修了証 (Higher Secondary Certificate: HSC) が必要とされている。これらの取得に際して、全国共通試験合格が義務づけられている。

## 引用及び主要参考文献一覧

- Ali, Syed, 2010. *DUBAI Gilded Cage*, Yale University Press, New Haven and London.
- Anderson, Bridget. 2000. *Doing the dirty work? The global politics of domestic labour*, Zed books: London, New York.
- Baldwin-Edwards, Martin, January 2005. *Migration in the Middle East and Mediterranean*, A regional Study prepared for the Global Commission on International Migration, Panteion University, Athens Greece, pp.1-42.
- Bangladesh Bureau of Statistics, 2020. *Statistical Yearbook of Bangladesh 2019* ([https://bbs.portal.gov.bd/sites/default/files/files/bbs.portal.gov.bd/page/b2db8758\\_8497\\_412c\\_a9ec\\_6bb299f8b3ab/2020-09-17-15-30-d0e641b2e659019f2aa44cbaf628caa8.pdf](https://bbs.portal.gov.bd/sites/default/files/files/bbs.portal.gov.bd/page/b2db8758_8497_412c_a9ec_6bb299f8b3ab/2020-09-17-15-30-d0e641b2e659019f2aa44cbaf628caa8.pdf)) (最終閲覧 2021年11月21日)。
- Bangladesh Bureau of Statistics, 2017. *Quarterly Labour Force Survey Bangladesh 2015-16* ([https://bbs.portal.gov.bd/sites/default/files/files/bbs.portal.gov.bd/page/96220c5a\\_5763\\_4628\\_9494\\_950862accd8c/QLFS\\_2015.pdf](https://bbs.portal.gov.bd/sites/default/files/files/bbs.portal.gov.bd/page/96220c5a_5763_4628_9494_950862accd8c/QLFS_2015.pdf)) (最終閲覧 2021年1月4日)。
- Bangladesh Bureau of Educational Information and Statistics (BANBIES), July 2007, *Education System of Bangladesh*.
- Choudhury, Toufic Ahmad and Habib, Shah Md Ahsan, 2008, *Manpower Export and Remittances, Emerging Issues in Bangladesh Economy: A Review of Bangladesh's Development 2005-06*. Center for Policy Dialogue and University Press Limited: Dhaka.
- Cohen, Robin, 2019. *Migration, The Movement of Humankind from Prehistory to the Present*, Andre Deutsch: London.
- Economic Adviser's Wing, Finance Division, 2011. *Bangladesh Economic Review 2010*.
- Economic Relations Division, Ministry of Finance, 2011. *Flow of External Resources into Bangladesh (As of June 2010)*.
- Government of the People's Republic of Bangladesh, Economic Relations Division, 2019. *Flow of External Resources into Bangladesh 2017-2018* (<https://erd.gov.bd/site/page/f2ac89b3-da47-4f2f-99cf-be352e15a40e/Flow-of-External-Resources-into-Bangladesh-2016-2017>)



- (最終閲覧 2021年1月4日).
- Hassan, Munir, 2008. *Complementarity between International Migration and Trade: A Case Study of Bangladesh* in Andaleeb, Syed Saad (ed.) *The Bangladesh Economy: Diagnoses and Prescriptions*, University Press Limited: Dhaka, Chapter 3, pp.51-71.
- Human Rights Watch, October, 2014. "I Already Bought You" *Abuse and Exploitation of Female Migrant Domestic Workers in the United Arab Emirates*: The United States of America ([https://www.hrw.org/sites/default/files/reports/uae1014\\_forUpload.pdf](https://www.hrw.org/sites/default/files/reports/uae1014_forUpload.pdf)) (最終閲覧 2021年11月30日).
- , 2009. *World Report 2010*. Human Rights Watch: New York.
- , 2006. *Building Towers, Cheating Workers Exploitation of Migrant Construction Workers in the United Arab Emirates* (<https://www.hrw.org/sites/default/files/reports/uae1106webwcover.pdf>) (最終閲覧 2020年6月7日).
- Kabeer, Naila, 2000. *The Power to Choose: Bangladeshi Women and Labour Market Decisions in London and Dhaka*, Verso; London and New York (= 遠藤環・青山和桂・韓載香訳、2016.『選択する力：バングラデシュ人女性によるロンドンとダッカの労働市場における意思決定』ハーベスト社).
- Kabir, Humayun, Maple, Myfanwy and Fatema, Syadani Riyad, August 2018. *Vulnerabilities of Women Workers in the Readymade Garment Sector of Bangladesh: A Case Study of Rana Plaza*, Journal of International Women's Studies, Bridgewater State University, Volume 16, Issue 6 (<https://vc.bridgew.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=2068&context=jiws>) (最終閲覧2021年11月28日).
- Kakande, Yasin, 2015. *Slave States, The Practice of Kafala in the Gulf Arab Region*, Zero Books: United Kingdom.
- Longva, Nga Anh, 1997, *Walls Built on Sand, Migration, Exclusion, and Society in Kuwait*, Westview Press: Boulder, Colorado and the United Kingdom.
- Mahdavi, Pardis, 2011, *Gridlock: Labour, Migration, and Human Trafficking in Dubai*, Stanford University Press: Stanford, California.
- Maimbo, Munzele Samuel and Ratha, Dilip (eds.), 2005. *Remittances Development Impact and Future Prospects*, The World Bank: Washington, DC.
- Ministry of Expatriates' Welfare and Overseas Employment, 2012. *Probashi*.
- Murshid, K.A.S., Iqbal, Kazi, and Ahmed, Meherun, August, 2001. *Migrant Workers from Bangladesh Remittance Inflows and Utilization*. Research Report No. 170, Bangladesh Institute of Development Studies: Dhaka.
- Nazneen, Khaleda, 2002. *Civil Society and Economic Empowerment*, Chapter 5, pp.109-126 in Khan, R. Mizan and Kabir, Humayun Mohammad, (eds.), *Civil Society and Democracy in Bangladesh*, Academic Press and Publishers Limited in Association with Bangladesh Institute of International and Strategic Studies Dhaka.
- Pradhan, Mohammad A. H. and Khan, Md Gias Uddin, September 2015, *Role of Remittance for improving quality of life: Evidence from Bangladesh*, Turkish Economic Review, Volume 2, Issue 3, pp.160-168 ([https://www.researchgate.net/publication/325646197\\_Role\\_of\\_Remittance\\_for\\_Improving\\_Quality\\_of\\_Life\\_Evidence\\_from\\_Bangladesh](https://www.researchgate.net/publication/325646197_Role_of_Remittance_for_Improving_Quality_of_Life_Evidence_from_Bangladesh)) (最終閲覧 2021年11月26日).
- Rahman, Md Mizanur, 2011. *Recruitment of Labour Migrants for the Gulf States: The Bangladeshi Case*, ISAS Working paper, No.132-6. pp.1-24 ([https://www.researchgate.net/publication/228120930\\_Recruitment\\_of\\_Labour\\_Migrants\\_for\\_the\\_Gulf\\_States\\_The\\_Bangladeshi\\_Case](https://www.researchgate.net/publication/228120930_Recruitment_of_Labour_Migrants_for_the_Gulf_States_The_Bangladeshi_Case)) (最終閲覧 2021年11月26日).
- Sen, Amartya, 2007. *The Global Economy in Shaikh Nermeen, The Present As History: Critical Perspectives on Global Power*, Columbia University Press: New York, pp.1-16.
- Suzuki, Yayoi, 2020. *A Study on the Background of Bangladeshi Migrant Labourers to the United Arab Emirates*, Journal of the Institute of Community and Human Services, Rikkyo University, No. 8, pp.53-78.
- Suzuki, Yayoi and Ritchie, Zane, 2019. *A Study of the Living Conditions of Bangladeshi Women Migrants in New York City*, Journal of the Institute of Community and Human Services, Rikkyo University, No.7, pp.35-56.
- Suzuki, Yayoi, Sato, Kazuhiko and Ritchie Zane, 2017. *A Study of the living conditions of Bangladeshi migrants in New York City*, Journal of the Institute of Community and Human Services, Rikkyo University, No.5, pp.69-89.
- Vora, Neha, 2013. *Impossible Citizens, Dubai's Indian Diaspora*, Duke University Press: Durham and London.
- World Bank Group. 2016. *Migration and Remittances Factbook 2016*. 3rd Edition: Washington D.C.
- 足立真理子、1994.『経済のグローバル化と労働力の女性化』竹中恵美子・久場嬉子(編)『労働力の女性化 21世紀のパラダイム』有斐閣選書、第8章所収、255-290頁。
- 石井正子、2011.『複合格差を移動する 湾岸諸国で家事労働者として働くフィリピンのムスリム女性』日本平和学会編『世界で最も貧しくあるということ [平和研究第37号]』早稲田大学出版部、第2章所収、25-46頁。
- 伊藤るり、2008.『再生産労働の国際移転とジェンダー秩序の再編 香港の移住家事労働者導入政策を事例として』伊藤るり・足立真理子(編著)『ジェンダー研究のフロンティア第2巻、国際移動と連鎖するジェンダー』再生産領域のグローバル化』作品社、第1章所収、21-46頁。



- 久場嬉子、2001.『『経済のグローバル化』における労働力の女性化と福祉国家の『危機』』竹中恵美子、久場嬉子（監修）、伊豫谷登士翁（編著）、2001.『現代の経済・社会とジェンダー 第5巻 経済のグローバリゼーションとジェンダー』明石書店第、2章所収、43-72頁。
- 編、2007.『介護・家事労働者の国際移動：エスニシティ・ジェンダー・ケア労働の交差』日本評論社。
- 鈴木弥生、2016.『バングラデシュ農村にみる外国援助と社会開発』日本評論社。
- ・佐藤一彦、2012.『関東学院大学人間環境研究所 2010年度研究プロジェクト報告抜粋：グローバリゼーションと経済・社会環境の変化』『関東学院大学人間環境研究所報』関東学院大学人間環境研究所、77-82頁。
- 、2004.『バングラデシュにおける子どものメイドへの支援——現地NGOの理念と活動を通して』『日本の地域福祉研究』第16巻、87-98、135-136、147-148頁。
- 竹中恵美子・久場嬉子（編）、1994.『労働力の女性化 21世紀へのパラダイム』有斐閣選書。
- 西川潤・高橋基樹・山下彰一（編著）、2006.『国際開発とグローバリゼーション シリーズ国際開発第5巻』日本評論社。
- （編著）、2001.『アジアの内発的発展』藤原書店。
- 、2000.『人間のための経済学』岩波書店。
- パレーニャス・サルザール・ラセル（小ヶ谷千穂訳）、2007.『女はいつもホームにある——グローバリゼーションにおけるフィリピン女性家事労働者の国際移動』、伊豫谷登士翁（編）、『移動から場所を問う 現代移民研究の課題』有信堂、5章所収、127-147頁。
- 宮崎和作、2004年12月.『アラブ首長国連邦（UAE）の石油産業構造』『IEJ』1-28頁。
- 森田桐郎編著、1994.『国際労働移動と外国人労働者』同文館。
- ヨー・ブレンダ（小ヶ谷千穂訳）、2007.『女性化された移動と接続する場所——『家族』『国家』『市民社会』と交渉するトランスナショナルな移住女性』、伊豫谷登士翁（編）、『移動から場所を問う 現代移民研究の課題』有信堂、6章所収、149-170頁。

## ホームページ

- Ali, Syed, November 11, 2007, 'You must come with us', The Guardian (<https://www.theguardian.com/lifeandstyle/2007/nov/12/familyandrelationships.firstperson>) (最終閲覧 2021年11月30日)。
- Ain O Salish Kendra, Association for Community Development, CEDAW and the Female Labour Migrants of Bangladesh ([http://www2.ohchr.org/english/bodies/cedaw/docs/ngos/MFA\\_for\\_the\\_session\\_Bangladesh\\_CEDAW48.pdf](http://www2.ohchr.org/english/bodies/cedaw/docs/ngos/MFA_for_the_session_Bangladesh_CEDAW48.pdf)) in Migration Forum in Asia ([www.mfasia.org](http://www.mfasia.org)) (最終閲覧 2021年11月21日)。

## XE Currency 換算ツール

(<https://www.xe.com/ja/currencyconverter/convert/?Amount=1&From=AED&To=JPY>)

(<https://www.xe.com/ja/currencyconverter/convert/?Amount=1&From=BDT&To=JPY> (最終閲覧 2021年11月27日))。